

HOPE, HEALTH, and HAPPINESS

みんなの幸せ、ねごととるけんね!



／ほうこうさんを飾りまい＼

編集:中條亜希子・広瀬杏子(高松市歴史資料館)/榎田瑤子(菊池寛記念館)/田口貴羅(高松市石の民俗資料館)/内田千裕(高松市香南歴史民俗郷土館)/中條敏雄(高松市讃岐国分寺跡資料館)/織田比呂子(高松市埋蔵文化財センター) 発行:高松市歴史資料館 2021年3月

特集 資料館 × 願い

#001 高松市歴史資料館

疫病退散の願いをこめて

高松のお姫様に仕えていたおまきさんは、あるじの病を自分に移して島に流されたという伝説で知られています。その話にちなんで作られた「ほうこうさん」は嫁入り人形として人気となり、家内安全・疫病退散を叶えてくれるお守りとして伝わっています。歴史資料館受付では高松張子のほうこうさんたちが皆様をお待ちしています。



アマビエだけじゃないけん



#002 菊池寛記念館

文壇の隆盛を願って

関東大震災、スペイン風邪、そして戦争一。数々の厄災が襲ってくる時代を生きた菊池寛。その視線の先には、作家の地位向上や生活基盤の確立など、文壇の明るい未来を願う思いがありました。

『文藝春秋』創刊 文藝家協会を組織 芥川賞・直木賞創設 大日本著作権保護同盟会長 菊池寛賞創設

菊池寛のしたこと



「マスク」 菊池寛記念館 ホームページにて 無料公開中!

S14年の写真を加工

100年前にも「マスク」!

大正7年、菊池寛30歳の頃。現代の新型コロナウイルスのように、世界中でスペイン風邪が流行し、猛威をふるっていました。そこで寛が執筆したのが、短篇小说「マスク」。感染対策を徹底する自身をモデルに書いた作品です。

※全ての予定は新型コロナウイルス感染対策などの諸事情により変更される場合があります。

2021年度スケジュール table with columns for months 4-3 and rows for museums #001 to #006.

#003 石の民俗資料館

「庵治石」石切場で働く人々の安全を願って

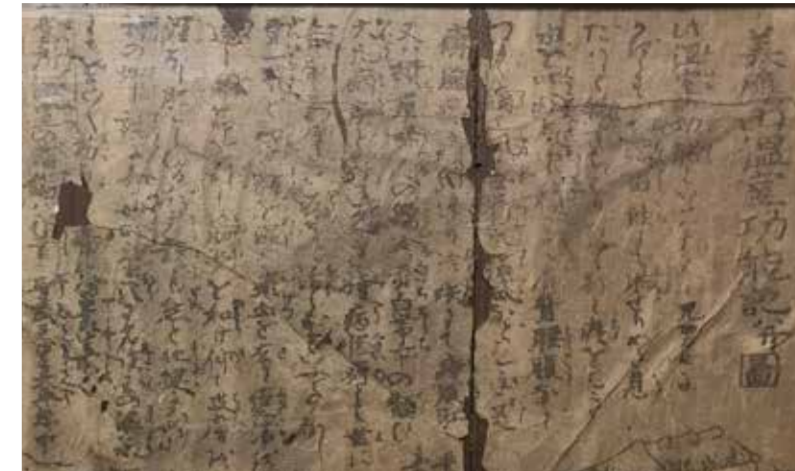
牟礼町・庵治町で産出される銘石「庵治石」。その採石に携わる石工たちは、古来より山と山の神様への信仰を大切にしてきました。牟礼町久通りに鎮座する山野神社の鳥居は庵治石でできており、山の安全を守る神様が祀られています。庵治石の採石には多くの危険が伴うため、石切場で働く石工たちの安全を願って、人々の信仰を集めてきました。現在でも山野神社では毎年1月・5月・9月にお祭りが開かれており、かつては供物として魚の「おこぜ」が必ず供えられたといわれています。石の民俗資料館では、このような庵治石にまつわる文化・歴史を紹介しています。



山野神社庵治石の鳥居

#004 香南歴史民俗郷土館

カラフロに入って疫病退散を願う



「美應山温室功能記并図」(部分) 香南歴史民俗郷土館蔵

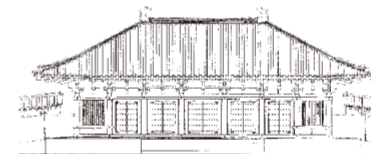
かつて高松市香南町の天福寺麓にあった「カラフロ(空風呂)」。行基菩薩によってはじめられたと伝わる蒸し風呂で、「美應山温室功能記并図」ではその機能を「病疾とて年久しき持病怪病とて世に希なるあやしき病など治らむといふ事なし」と宣伝しています。風呂は昭和36年まで焚かれていましたが、利用客の減少により終了。浴室があった場所は平成2年に天福寺表参道沿いの駐車場となり、その後入浴料看板や浴屋の火鉢が香南歴史民俗郷土館に寄贈されました。病が流行した聖武天皇の時代の創立と伝えられている天福寺のカラフロ。古の人々も疫病退散を願い、風呂に入って健康増進に努めたのでしょう。



「入浴料金看板」香南歴史民俗郷土館蔵

#005 讃岐国分寺跡資料館

聖武天皇の願い



奈良時代、聖武天皇が即位した頃、世の中は疫病の流行や政変によって疲弊していました。それを憂えた天皇は仏教による鎮護国家を願い、741年に詔勅を出して諸国に国分寺と国分尼寺を建立させました。それらは金光明四天王護国之寺、法華滅罪之寺と名付けられ、僧たちが日々国家と人々の安寧を祈って仏道に励んだ寺院でした。瓦葺きの立派な伽藍、周囲を巡らした築地、高くそびえる七重塔は人々の注目を集めたことでしょう。今そこは特別史跡讃岐国分寺跡として、往時の様子や人々の願いが偲ばれる史跡公園になっています。



僧坊跡覆屋内部

史跡公園

#006 高松市埋蔵文化財センター

人びとの願いをうつす伝世鏡



鶴尾神社4号墳出土 直径:18.2cm、厚さ:3-5mm、(1/4高松市教育委員会蔵、3/4個人蔵・東京国立博物館保管)

古墳からは銅鏡をはじめ装身具等様々な器物が出土しますが、なかでも鏡には土地の神を鎮め邪気を払う等特別な力があるとされ、権力者を中心に大変重宝されてきました。高松市の峰山町周辺に所在する、土の代わりに石を積み積石塚で有名な石清尾山古墳群。そのなかの鶴尾神社4号墳から出土した獣帯方格規矩四神鏡は、その特徴から中国の新代(1世紀初頭)に製作されたと考えられています。鶴尾神社4号墳の築造は古墳時代初頭(3世紀中頃)と想定されるため、鏡は作られてから250年近く経たのちに副葬されたこととなります。割れた破片を紐で繋ぐ等、長い間大切に受け継がれてきた痕跡が随所に見られる鏡といえるでしょう。